

報道関係各位

2018年4月4日

ソーラーフロンティア株式会社

2018年は太陽電池研究開発40年 戦略商品「SmaCIS」で国内住宅市場を開拓



1986年、NEDOの実証事業として八ヶ岳の最高峰赤岳の山荘に太陽光発電システムを設置



2018年1月より出荷を開始した国内住宅市場向け戦略商品「SmaCIS（Sタイプ）」

ソーラーフロンティア株式会社（代表取締役社長：平野敦彦、本社：東京都港区台場 2-3-2、以下：ソーラーフロンティア）は、CIS 薄膜太陽電池の累計出荷量が 5GW を超えたことをお知らせします。

2018年はソーラーフロンティアにとって、太陽電池研究開発40年となる節目の年です。親会社である昭和シェル石油（旧昭和石油）株式会社が再生可能エネルギーの調査を開始したのは1978年。1981年には米国のアーコソーラーと技術提携契約を締結し、マネジメントや研究員を派遣し、石油事業に次ぐ事業の柱となる太陽電池事業の種を蒔きました。1980年代後半から1990年にかけてNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の実証事業として北アルプス・南アルプスに太陽光発電システムを設置。1993年にCIS 薄膜太陽電池の研究を開始、2007年に商業生産を開始して以来、高い実発電量と競争力のある発電コストをお客様に提供してきました。2017年には薄膜太陽電池全体の世界最高記録となるエネルギー変換効率22.9%を達成し、さらなる高付加価値商品の開発に取り組むなど、当社のCIS 薄膜太陽電池技術は着実な進歩を遂げました。

こうした中での累計出荷量5GWの達成は、ソーラーフロンティアのCIS 薄膜太陽電池が誇る、高温や影に強く実際の設置環境下における優れた発電能力や、100%国内生産の品質、20年保証を含む安心のアフターサービスに対するお客様からの信頼の証です。

ソーラーフロンティアは、消費者の電力自給自足への関心の高まりや、政府が進める 2020 年の ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）標準化政策を受け、国内住宅市場を重要なターゲットと位置づけています。2018 年は戦略商品である「SmaCIS」の新ラインナップとして施工性、意匠性を向上させた「SmaCIS（S タイプ）」も発売し、住宅向け市場を更に開拓していきます。当社は、今後も、実発電量が高く、美しいデザインが特徴の CIS 薄膜太陽電池の益々の技術革新を追求し、太陽による快適でクリーンな暮らしをお客様にお届けしてまいります。

以上

<参考> 太陽電池研究 40 年 ソーラーフロンティアの原点と現在

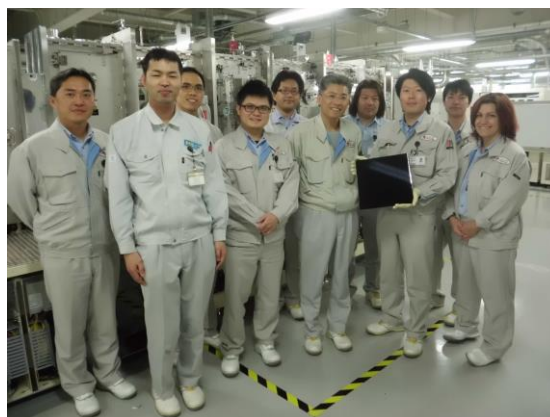
1988 年

米国のアーコソーラーに研究員として当社社員が派遣され、研究を行っていたころ



2017 年

30 cm各のサブモジュールにおいて 17.8%、約 1 cm²の CIS 系薄膜太陽電池セルにおいて 22.9%の世界最高変換効率を達成



【ソーラーフロンティア株式会社について】

ソーラーフロンティア株式会社は、昭和シェル石油株式会社（5002, T）の 100%子会社で、世界最大級の CIS 薄膜太陽電池メーカーです。当社が生産・販売する CIS 薄膜太陽電池は、高温や影に強く発電量が多いことや、景観を損なわない美しいデザインが特長です。加えて 100%国内生産の品質や 20 年保証を含む安心のアフターサービスが評価され、大手ハウスメーカー様による新築住宅への採用をはじめ住宅用・産業用など幅広い用途で採用いただいています。2018 年 6 月にパシフィコ横浜で開かれる PV Japan（太陽光発電協会主催）にも出展予定です。当社は CIS 技術の特性を生かした価値創造を通じて、太陽による快適でクリーンな暮らしをすべての人にお届けします。事業者情報や最新ニュースの詳細は、当社公式の[ホームページ](#)、[コーポレートビデオ](#)、[Facebook](#)、[Twitter](#) をご覧ください。